

2018 年度交換留学(派遣) 報告書 ①

所属学科／研究科	心理学科
留学先国	中国
留学先協定校	陝西師範大学
留学期間	約 11 ヶ月
留学時学年	3 回生
留学先での所属	国際漢学院
渡航日／発着便	2018 年 3 月 2 日 関空→西安
帰国日／発着便	2019 年 1 月 23 日 江北（重慶）→関空
留学先で取得した単位数合計	41 単位
本学で認定された単位数合計 （※30 単位上限）	25 単位（中国語応用一括）
海外留学助成金	23 万円（前期 13 万円＋後期 10 万円）助成
検定試験合格者助成金	—
備考	—

留学成果レポート

■なぜ、派遣先国・派遣先大学への留学を希望しましたか？

中国語・中国文化に興味があり、中国語は就職に役立つと考えたため。交換留学制度の資料を見たり、学生支援センターなどで話を聞いて、留学先校の環境や質、学習環境を調べ、結果中国そして陝西師範大学を希望しました。

■派遣先大学で、どのようなことを学習・研究しましたか？

授業では主に中国語を学びましたが、授業中での討論や授業外での中国人学生や他国の留学生と関わっていく内に、教科書には載っていない文化、中国人の考え方や他国の留学生の国の文化などを知ることができました。

■留学するにあたっての目標は何でしたか？ 目標は達成できましたか？

語学力の向上、中国・世界の文化を体感すること。日本の文化を発信すること。
語学力については、日常会話ができるレベルまで成長することができましたが、中国人同士の会話にはまだまだついていくことが難しいです。色々なことや文化を体験できましたが、もっと自分の国のことを知らないといけないと思いました。

■派遣先国・大学で、どのような国際交流を行い、どのような活動をしましたか？

中国人の友達の故郷に招いてもらったり、留学生の課外活動に参加し、文化を体験したり、交流を深めました。中国人の知り合いに日本語を教えたり、日本の料理をふるまったり、お互いの国の料理や踊りを教え合ったりもしました。

■留学中、どんな困難や苦労がありましたか？またその困難をどう乗り越えましたか？

留学した当初は言葉も通じず、何もわからず、不安な日々を過ごしていましたが、下手なりに留学生や食堂のおばさんたちに話しかけていくと、会話ができたことが自信になっていき、だんだんと積極的になることができました。私にとっての一番の困難は日本よりも一時間早い授業の時間でした。朝が弱い人は慣れるまで大変です。目覚まし時計をたくさんセットして、ルームメイトと協力して乗り越えました。

■留学前と比べて「学習面」で成長できたと思う点はなんですか？

最初は言葉が全く聞き取れない、会話もままならないレベルでしたが、今は日常会話程度なら話せるようになりました。しかし、現地の人同士の会話についていくには、まだまだ時間がかかりそうです。HSK4級を取得したので、次の5級の取得に向けて継続して勉強をしていきたいです。

■留学前と比べて「人物面」で成長できたと思う点はなんですか？

一番変わったと思うのは、度胸がついたこと。失敗を恐れず行動する度胸、知らない土地での困難を克服した自信も得ることができました。また、日本と違い自分の考えをどんどん発信していく環境の中で、自分の意思を伝える力、コミュニケーション力、発信力が身についたと感じました。また色々な国の人と出会って、色々な考え方を知り、自分の世界が広がって、偏見も捨てることができ、相手のことを真の意味で理解することが重要だと改めて感じるようになりました。

■今後、この留学経験をどう生かしていこうと考えていますか？

この経験で得た発信力、自立力、コミュニケーション力は社会で活躍するためには重要なスキルだと思います。ですので、この経験はこれからの人生で困難に出会った時に、自分の助けになるとともに、困っている人の役にも立てると思います。将来は、この経験や語学力を生かし、外国人と関わりのある仕事や旅行関係の仕事に就きたいと考えています。

■留学は楽しかったですか？留学して良かったですか？留学を終えての感想を

この留学中に色々な人と出会い、色々なことを経験しました。私の一番の思い出は、友達の誕生日会を開いたことです。今まで自分でパーティーを開いたことはなく初めての経験でしたが、ルームメイトや友達と協力して、料理を用意したり、準備をして、無事にパーティーを成功させることができました。パーティーの途中でダンスを踊ったり、歌を歌ったりした時はなんて素晴らしいひと時なんだろうと思いました。こういった出会いは留学ならではのことで感じました。もちろんいい思い出ばかりではなく、つらく涙を流した日もありましたが、色々な自分にも出会えて、その経験は間違いなく私を成長させてくれました。そんな約1年間の留学生活はとても充実したものだったと思います。

留学アドバイス

■中国及び派遣先大学の印象は？

西安は古都ということもあり、兵馬俑、大雁塔などたくさんの歴史的遺産がありましたが、中心部は経済もかなり発展しており、にぎやかな都市でした。夜には広場でダンスをしていたり、露店がいたるところで開かれたりと、とても活気のある街でした。交通も便利で物価も比較的安く、治安もよかったです。陝西師範大学はキャンパス内の景色もよく、学生も勉強熱心で、食堂のご飯はとても美味しいことで有名でした。

■留学して一番困った・大変だったことは？

留学当初は言葉も勝手もわからず、コミュニケーションや日常会話でも苦労することが多かったです。留学2日目に操作ミスで銀行カードがATMから出てこないというトラブルがあり、その時が週末だったため、翌週偶然知り合った学生の人について行ってもらい、何とか取り戻すことができました。

■留学中の楽しかった・嬉しかったできごとは？

授業で先生が話す内容がほぼ聞き取れるようになったり、中国人の友達の話す内容が聞き取れるなど進歩を感じた時。お互いの国の話をして、知らないその国のことを教えてもらった時。

■留学先に持ってきて良かった・持ってくれば良かったと思ったものは？

・日本の調味料、お菓子。
(理由) 日本食や文化に興味のある留学生がとても多かったので、着物など日本の衣装を持っていけばよかったです。サッカーワールドカップの時は日本のユニフォームを着て応援しました。
・目薬、物干しロープ、壁掛けフック、電子辞書と紙の辞書。
(理由) 寮の中は洗濯物を干す場所は外にしかないので、心配なら部屋で干してもよい。その時持ってきていたロープやフックが役立ちました。テストの時は電子辞書は駄目で紙の辞書ならいいということがありました。

■留学中のお金の管理はどうしていましたか？

仕送り方法は、日本で VISA のデビットカードを作り、その口座に奨学金を入れてもらい、現地の ATM で下ろしていました。デビットカードの設定では、海外でも使用可能にしておかないと、お金を下ろすことができないので要注意です。

■派遣先大学での生活環境はどうでしたか？

大学内の寮は3つあります。1つはホテルが大学に貸しているもので、ここが一番家賃が高いですが、サービスが充実しています。原則2人相部屋で2階にキッチン、洗濯機。2つ目の寮は麵食堂の隣にあり、一番多く留学生が住んでいます。2～3人部屋で、夜 11 時までの門限あり。もう1つは風呂トイレ共用で、こちらも夜 11 時までの門限あり。

■派遣先大学での課外活動はどんなものがありましたか？

クラブ活動やサークルは運動系から文化系まで様々あります。基本的にサークル内の国籍は中国人のみが多く、留学生が入るには高い中国語能力がないと難しいかもしれません。他にも、月1回ぐらいのペースで留学生の課外活動があります。

■どのような国籍の留学生がいましたか？

アジアを中心に世界各国から留学生が来ています。キルギスタンからの留学生は本当に日本人によく似ています。日本人留学生の人数は、前期後期で入れ替わりますが、多くて5人ほど。留学生の他に、隣の外国語大学の日本語学科の先生や在住の日本人と関わる機会もありました。

■渡航前にすべきこと・やっておいたほうが良いことは？

発音の練習、単語を覚える、WeChat (SNS) の登録、日本の歴史や文化(特にアニメ・漫画に興味のある留学生はとて多い)の勉強。中国で使う証明写真は基本背景が白色でないと認められないので、日本から準備していく時は要注意。

■渡航後にすべきこと・やっておいたほうが良いことは？

最初はわからないことばかりで、気持ちが不安になるので、地図をもらって迷子にならない程度に校内を散歩したり、食堂を見回ったりすると気分を変えることができるかも。居留許可証発行までの3週間余りの期間はパスポートの原本がないので、銀行カードを作ることができません。

■今後の派遣留学生にむけてアドバイスを

あまり深く考えず、色んなところに行って、色んな人と関わって、色んなものを見て感じたらいいと思います。生活面では異国のルームメイトとの共同生活の中で文化や価値観の違いによるズレは必ず起こると思っておいた方がいいです。ストレスが大きすぎる場合や耐えられないと思ったときは、オフィスの先生に相談すると部屋を変えてくれたり、違う寮に移るなどの手助けをしてくれます。意外と中国の歌は日本では聞く機会がありませんが、結構いい曲が多いです。是非アプリをとって聞いてみてください。学習のお供にもなります。公共のトイレには基本紙がないので、外出時は必ず紙を持って行った方がいいです。

留学体験記

私の留学の動機は強い海外への憧れでした。これまで私は海外に行ったことはありませんでした。しかし高校生の頃からテレビやインターネットで海外の映像を見ていると、日本から出て、自分の目と体で広い世界を見て感じたいと思うようになりました。そして大学に入り中国語と出会い、中国語に興味を持ち始めた頃、この交換留学制度を知り、留学できる機会は今しかないと思い、留学に行く決心をしました。

数多くの思い出の中でも留学中の一番の思い出は、友達の誕生日会の時にみんなで踊ったことです。ご飯を食べた後、踊ろう！となって、音楽をかけながら、違う国籍の人達が同じ場所で一緒に歌って踊っているとき、なんて素晴らしいひと時なんだと思いました。

留學生活の中で、日本と違い自分の考えをどんどん発信していくような環境の中で、自分の考えを伝える発信力、コミュニケーション力、さらに失敗を恐れず行動する度胸も身についたと思います。留学を通して海外の友達もたくさんできましたし、中国で彼女も見つけることができたので、これから先もこの関係を大切にしていきたいと思います。

交換留学制度を利用したので、入学時の手続きはすべて大学側が行ってくれるので、複雑な手続きを踏むことなく留学の準備をすることができました。また安全対策のための情報や、その国の環境や派遣先校などの事前情報や過去の留學生の体験談なども提供してくれるので、安心して留学に臨むことができました。

この経験で得た発信力、自立力、コミュニケーション力は社会で活躍するためには重要なスキルだと思います。ですので、この経験はきっとこれからの人生において、困難に出会ったときに自分の助けになるとともに、困っている人の役にも立てると思います。

